

Title	製薬企業の対米進出戦略 - 米国医家向医薬品市場進出における最適戦略パッケージを求めて -
Sub Title	
Author	佐藤道夫(Satou, Michio) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第413号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0413

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 佐藤道夫 主査 小林規威
(エーザイ株式会社) 副査 片岡一郎
所属ゼミナール 小林規威研 和田充夫

製薬企業の対米進出戦略 —米国医家向医薬品市場進出における最適戦略パッケージを求めて—

昭和50年代に入ると、日本で活動する製薬企業を取り巻く環境は非常に厳しくなってきた。日本の製薬企業各社から見た対応策には、より秀れた新製品の開発、製品の多角化、そして市場の多角化、すなわち国際化が考えられる。本研究において、私は、このうち国際化、とりわけ世界一の市場規模を持つ米国への企業進出に焦点を当て、戦略構築への手がかりを求めたいと思った。どうすれば有効な戦略を作成・実施できるのか。私はそれを必要とされる経営資源と管理項目の最適パッケージ（これを最適戦略パッケージと呼ぶ）の構築に賭けられていると考えた。最適戦略パッケージ構築のためには、まず米国医家向医薬品市場の現状と将来性を理解し、それに対応した企業進出の形態と順序とを決定することが必要となる。

次に、最適戦略パッケージに盛り込まれるべき資源と管理項目とは何か。私はそれを、日本の製薬企業の実態に即した業務分析から帰納し、一つの理論モデルを作成した。第三に、それでは理論モデルと実務との間に乖離は、認められないのか。この点私は、既に対米市場進出の経験を持つ、日本及び欧州の企業の関係者に対して、実態調査を行い、その現実妥当性を検討し乖離点を確認し、その評価に従って、理論モデルの改善に努めた。以上のような研究の結果、私は、次のような一応の結論を得た。私の作成した最適戦略パッケージの理論モデルは、総合的に見て日本企業の採択してきたパッケージと整合しているといえたが、一部に乖離した部分も発見された。何故、理論モデルと日本企業の行動とは一部分にせよ違うのか。この点の解答は、私が、必要な経営資源と管理項目に、日本と現地の双方で利用可能な資源や管理の仕組みの最適なコンビネーションを求めたのに対し、日本企業が、現地企業経営のすべての局面において、日本の資源の持ち出しと、日本人によるコントロールを重視していることに求められた。結論としては、私は、国籍を問わない資源と管理のミックスの最適構成のうちこそ、最適戦略パッケージ構築の鍵があるものと考えているのである。